



令和 8 年 9 月 16 日

## 令和 8 年度 第 1 回環境・サステナビリティ委員会を開催 ～ 第 1 回 日本物流大賞 大賞受賞企業 北海道ロジサービス株式会社による講演会を開催～

（一社）日本物流団体連合会（物流連）は、9 月 10 日（木）、全日通霞が関ビル（千代田区霞が関）において、令和 8 年度 第 1 回環境・サステナビリティ委員会（委員長：日本貨物鉄道株式会社取締役兼執行役員 経営統括本部長 高橋秀仁 氏）を開催しました。

「環境・サステナビリティ委員会」は、物流の低炭素・脱炭素化や効率的な輸送システムの構築など、持続可能な物流の実現を目的として、諸課題の検討や情報提供を行っています。また、優良事業者・優良事例の表彰等を通じ、持続可能な物流体系の普及促進に取り組んでいます。

第一部では、北海道ロジサービス株式会社 川上敏也氏を講師にお招きし、「DX×匠の現場力による物流構造改革」と題した講演会を開催しました。

講演の冒頭では、北海道全域を支える生活インフラとしての店舗物流の重要性や、北海道エリア特有の課題（積雪・寒冷・広域配送）について説明があり、従来の一便体制が抱えていた非効率性が示されました。こうした背景のもと、「二便体制からの一便化」「AI 配車と現場力の融合」「共同配送プラットフォーム構築」などの改革に取り組み、平均積載率の 78%から 93%への向上、CO<sub>2</sub>排出量年間 310 トンの削減および、ドライバー拘束時間年間 26,448 時間の削減を達成された。

特に今回の改革は、荷主と物流業者の双方が物流危機を自分ごととして受け止め、納品時間・配車条件など互いの制約を少しずつ譲り合いながら進めた協働の成果である点が強調されました。従来の商習慣にとらわれず、関係者全員が「持続可能な物流」を共通目標として取り組んだことが、今回の大きな成果につながりました。

講演後は活発な質疑応答が行われ、AI 配車の課題や荷主との調整方法など実務的な議論が交わされ、参加者の理解が深まり、盛況のうちに終了しました。

第二部の委員会では、環境・サステナビリティ委員会の令和 8 年度上期活動報告として、

1. 第 1 回 「日本物流大賞」
2. グリーン物流パートナーシップ会議の運営
3. カーボンニュートラル情報交換会の開催

の 3 点の活動状況について事務局より報告がありました。

続いて「令和 8 年度 下期活動計画(案)」について、

1. 第 2 回「日本物流大賞」案件募集
2. グリーン物流パートナーシップ会議
3. カーボンニュートラル情報交換会の開催

の 3 点を実施していく案が事務局より示され、原案通り承認されました。

今後も本委員会の活動を通じ、物流業界全体での持続可能な物流の実現を目指して、推進してまいります。

事務局 島



講師

北海道ロジサービス株式会社 川上氏



委員会で議事を進める高橋委員長



講演会全景